

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 数学的活動を楽しみ、算数に意欲的に取り組むことができる児童が増えてきた。
- ・ 電子黒板の有効的活用により、視覚からの理解が深まった。

(2) 課題

- ・ 基礎・基本の課題を確実に正答につなげる力を付ける必要がある。
- ・ 日常生活や身近な物から考える体験的活動を多く取り入れることで、時間や面積、体積、重さなどの量感を身に付ける必要がある。
- ・ 文章問題を正確に読み取る力、記述により表現する力、書かれている内容を最後までしっかり理解して解く力に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	<p>△「数と計算」の領域の内容は、概ね目標値を上回った。特に、かけ算の項目は目標値を大きく上回った。</p> <p>▽「図形」「測定」「データの活用」の領域の内容は、全て目標値を下回った。特に、「円と球・三角形」の項目は目標値を大きく下回った。</p>	/	/
第5学年	<p>▽全ての項目で目標値を下回った。特に、小数のわり算は、目標値を大きく下回った。</p>	<p>▽たし算と引き算の正答率が高いが、かけ算とわり算の正答率が低い。</p> <p>▽図形の定義を問う問題の正答率が低い。</p>	/
第6学年	<p>▽ほとんどの項目で目標値を下回っている。特に、「割合」「小数の計算」の項目は、計算問題と活用問題ともに目標値を大きく下回った。</p>	<p>△数の相対的な大きさや表し方の正答率が高い。</p> <p>△分数の計算の正答率が高い。</p> <p>▽角の大きさや割合の正答率が低い。</p>	<p>▽かけ算の正答率が高いが、余りのあるわり算の正答率が低い。</p> <p>▽図形の定義や特徴の知識を問う問題の正答率が低い。 (第4学年時)</p>

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・数の構成や計算問題の正答率は目標値と同程度である。 ・長さや水の量などの単位換算、分数や小数の構成などに関する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「グラフの読み取り」や「□を使った計算」などの正答率は目標値を大きく下回った。データを読み取る力や抽象化された計算を解く思考力を身に付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数が苦手な児童も前向きに学習に取り組んでいる。 ・具体物を操作するなどして、既習事項を活用した学習を取り入れて意識を高める必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・小数の計算第二位以降になると極端に正答率が下がる。 ・余りのあるわり算になると極端に正答率が下がる。 ・分母をそろえる問題では、正答率が下がる。 ・割合を求める設問の正答率が低い。比較量、基準量、割合の関係性を捉えられるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「変わり方調べ」や「折れ線グラフと表」の設問では大きく目標値を下回った。数量の関係を表現したり、グラフや表から読み取れることを記述したりする力を身に付けたい。 ・「割合」「円グラフ・帯グラフ」では、割合やデータを活用する問題の正答率が低い。データを活用する力を身に付けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述問題では無回答が増える。 ・発展的な問題になると、より無回答が増えるため、「問題を読みとってみよう」「立式を考えてみよう」という意識を高める必要がある。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに5分間トレーニングプリントを行い、既習事項の定着と、計算技能の向上を図る。 ・実物の量を比べたり測定したりする活動を取り入れ、理解を深めたり、測定技能を高めたりする。 ・ICTを活用し、視覚的に理解しやすくしたり、反復練習したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を繰り返し読ませたり、「分かっていること」や「求めること」に線を引かせたりして、問われていることを正確に理解させる。 ・ブロックなどの半具体物の活用や、簡単な図をかくことで、問題文を理解したり、計算の仕方を考えたりすることができるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の内容や児童の実態に応じて、グループ編成を工夫する。 ・ペアでの話し合い、グループ活動、全体での練り上げなど、様々な形態を取り入れ、協働的に楽しく学べるようにする。 ・ICTやゲームを取り入れ、児童の興味、関心を高める。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・授業の始めに5分間トレーニングプリントを行い、既習内容の理解を深める。・具体物を使つての体験活動を通し、水のかさや長さ、重さなどの量感を養う。・授業の終末に適用問題に取り組むことで、その時間に学習したことを振り返り活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・文章を繰り返し読ませたり、「分かっていること」や「求めること」に線を引かせたりして、問われていることを正確に理解したうえで考えさせる。・データ同士の関係性やそのデータが何を示しているかを読み取ることができるよう、繰り返し練習を行う。	<ul style="list-style-type: none">・学習に対する意欲が継続できるように、スモールステップで目標を設定し、達成感を積み重ねて、自信を付けさせる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・学習の始めに5分間トレーニングプリントを行い、誤答が多い問題を簡単に解説し、理解を深める。・数直線の書き方や、数直線をもとにした数量関係の見方を理解させる。・授業の終末に適用問題に取り組むことで、その時間学習内容が身に付くようにする。	<ul style="list-style-type: none">・表やグラフを扱う単元では、題名、縦軸と横軸、単位を読み取らせ、何を表す表やグラフかを理解したうえで、値の変化を読み取らせていく。・割合に関係する単元では、常に1あたりの量に着目させていく。立式の根拠も、数直線で捉えさせ、必ずもとにする1から考えてかけ算から数量の関係を捉えさせるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none">・単元や毎時間の終末では、習熟度にあった適用問題や振り返りをし、「できた」「分かった」を実感させていく。・習熟の段階に応じて、プリント学習やタブレット学習を取り入れて、個に応じた学習が進むようにする。